

現職者共通研修（テーマ8～10 事例報告と事例研究、事例検討） 参加者募集、座長募集(事例報告会)のご案内

謹啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

令和5年度現職者共通研修会を以下の通り開催しますので、ご案内申し上げます。事例報告会は、日本作業療法士協会生涯教育制度の現職者共通研修対応です。参加者は「**テーマ⑧事例報告と事例研究**」と「**テーマ⑨事例検討**」、発表者は加えて「**テーマ⑩事例報告**」が履修できます。

また事例報告会にて、より多くの先輩作業療法士の方々の参加により、作業療法全体の質の向上にも繋がると考えますので、ぜひ1人でも多くの先輩作業療法士の参加もお待ちしています。

謹白

—記—

1. 開催日：令和5年8月27日（日）

2. 開催方法：ZOOM

<注意点>

- ・研修会（ZOOM）への参加方法はパソコンを推奨します。ネット環境が整った場所で、有線 LAN の使用を推奨します。※トラブルが生じた場合は、スマホやタブレットで復旧までの時間を補えます
 - ・ネット回線の関係により、途中で ZOOM から退出した場合や、参加の様子が安定しない場合（反応等ない場合）、パソコンの前にはないことが想定される場合、不参加扱いとさせていただきます。
 - ・ビデオは基本的に off にして下さい。また質疑応答を除きミュートにてご参加下さい。
 - ・ZOOM 参加時に表示される名前の変更をお願いします。
- ※第1部参加者 会員番号・名前 例（1234 静作太郎）。
- ※第2部参加者 参加グループを追加 例（A 1234 静作太郎）

3. プログラム

第1部 テーマ8「事例報告と事例研究」 ※参加費：1000円（振込方法・期限は下記参照）

8:40～9:05 受付

9:10～10:40 「事例報告と事例研究」 講師：鹿田将隆 氏（常葉大学）

第2部 テーマ9.10 事例報告会 ※A・Bグループに分かれて展開致します。

10:30～10:50 受付 参加費：無料

11:00～12:30 テーマ9.10「事例検討」「事例報告」

※発表者については下記参照

下記発表プログラムにてご確認頂き、参加グループを決めておいて下さい。(Aグループ or Bグループ)

4. 座長募集について（静岡県認定作業療法士に限る）

事例報告会開催において認定作業療法士を対象とし座長の募集を行いません。理由としては、認定作業療法士更新要件の一つとして、「作業療法の啓発に関する社会的貢献（他団体事業への参画、協会・士会の事業、原稿執筆、座長、論文査読など）」と記載されています。社会貢献の機会を増やす目的とし教育部として事例報告会での座長の機会を設定させて頂きました。座長の選定については、教育部内で検討し決定したいと思います。

※申し込み方法：下記のメールアドレスまでご連絡下さい。

教育部西部地区担当 宮野真伍 宛 メール：Kyoikubu.seibuchiku.shizuot@gmail.com

※座長募集人数：2名 座長決定：8月11日（金）前後に応募者全員に結果を通知いたします。

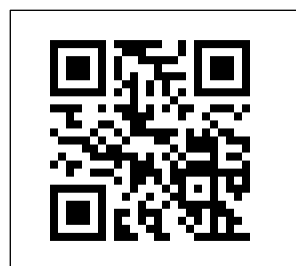
座長の先生には事前に抄録を添付致します。

5. 参加申し込み

右記QRコードまたはURLから

お申し込み下さい（Peatix）

〆切：8月20日（日）



<https://peatix.com/event/3636734>

【確認・注意事項】必ずご一読下さい

- 事例報告会は無料ですが、参加希望者は必ず**申し込み**をお願い致します。
- 第1部のテーマ8「事例報告と事例研究」の参加者は、**入金の確認できない場合、研修会履修とみなされません**のでご注意ください。
- 上記URLかQRコードより、peatixへアクセスして頂き、必要事項を入力して下さい。
- 申し込み後、申し込みを受け付けた旨が記載されたメールが、送信時のメールアドレスへ自動返信されます。メールが届かない場合は入力したメールアドレスに問題があるか、ブロック機能等の影響があります。**迷惑メールフォルダ等**をご確認の上、自動返信メールが届かない場合は、下記問い合わせ先のメールへご連絡ください。
- メールアドレスは、今後研修会案内等で連絡させていただきます。そのため、個人取得されているGmailやYahooメール等のプロバイダーメールをご使用ください。迷惑メール等で返信できない恐れがある為DoCoMo/au/SoftBank等のキャリアメールはお控えください。また、不特定閲覧可能な職場等の共有メールはお控えください。
- 申し込み者様に対し、**8月23日～27日にかけて**、抄録が閲覧できるURLをpeatixからメール送信させていただきます。**8月24日（木）になっても、メール連絡が来ない場合は**、下記連絡先のGmail（静岡県作業療法士会 教育部）までご連絡をください。
- 必ずご入力頂いたアドレスのメール受信等を確認して頂いてください（迷惑メールフォルダを含め）。

6. 支払い方法

- ・クレジットカード決済、コンビニ支払い、Paypalによる支払いのいずれかがお選び頂けます。
- ・イベントサイト Peatix のイベントページ内から案内に従ってお支払い下さい。
- ・コンビニ支払い手数料は申込者様負担にてお願い申し上げます。
- ・キャンセル等において、原則は振込後のキャンセルによる返金は致しかねますので、ご理解ご了承下さい。また、申込前に必ず静岡県作業療法士会のキャンセルポリシーを閲覧してください。

7. その他：

- ・協会及び県士会へ入会されていない方は、必ず入会手続きを済ませて下さい（参加は会員に限ります）。受講後、協会に申請をしますので協会会員番号を取得されていないと履修反映ができません。
- ・当日何か不具合等ありましたら浜松市リハビリテーション病院（作業療法士 秋山尚也宛）まで電話にてご連絡下さい。（当日メールではタイムリーに対応できないため）

TEL：053-471-8331（研修会当日のみ） 対応時間：8:30～12:30

※事前の問い合わせについては下記メールアドレスまでご連絡下さい。

- ・今年度の事例報告会は年2回となります。次回は12月3日（日）を予定しています。詳細が決まり次第ご案内をします。

現職者共通研修

テーマ1	作業療法生涯教育概論	テーマ6	作業療法の可能性
テーマ2	作業療法における協業・後輩育成	テーマ7	日本と世界の作業療法の動向
テーマ3	職業倫理	テーマ8	事例報告と事例研究
テーマ4	保健・医療・福祉・地域支援	テーマ9	事例検討（聴講）
テーマ5	実践のための作業療法研究	テーマ10	事例報告（発表）

8. 問い合わせ先

静岡県作業療法士会

教育部 西部地区担当 宮野真伍

メール：Kyoikubu.seibuchiku.shizuot@gmail.com

テーマ 9～10 事例報告会

受付 10 : 30～10 : 50 開始 11 : 00～12 : 30

※発表時間 7分 質疑応答+S Vからのコメント 2～5分 1演題につき 12分間

..... Aグループ.....

- 1 「左上肢弛緩性麻痺を呈した小児に対する作業療法の役割 ～困り事のなかった小児が HOPE を表出するまで～」
○廣田 佳菜子 氏 (浜松医科大学医学部附属病院) SV : 下田 亜由美氏
- 2 「麻痺手の不使用に対し、自助具導入による内発的動機づけを行った事例」
○村松 麻美 氏 (浜松市リハビリテーション病院) SV : 石川 真理 氏
- 3 「下腿切断患者に対して興味関心チェックリストを使用したことで QOL が向上した一例」
○小柴 皓嗣 氏 (浜松医科大学医学部附属病院) SV : 秋山 恭延 氏
- 4 「重度の上肢運動麻痺を呈した事例に対し、麻痺手の機能改善と使用頻度向上を目的に包括的に介入した事例」
○塚本 晶貴 氏 (中東遠総合医療センター) SV : 増田 昌行 氏
- 5 「疼痛・浮腫の強い左橈骨尺骨遠位端骨折患者への作業療法 ～整容動作獲得を目指して～」
○青島 詩奈 (静岡済生会総合病院) SV : 中村 哲朗 氏
- 6 「左被殻出血により遂行機能障害、病識低下を呈した症例について ～自己洞察から復職を目指した1例～」
○沢田 壱成 氏 (静岡リハビリテーション病院) SV : 杉山 卓也 氏
- 7 「不登校児に対する保育所等訪問と個別作業療法の実践報告」
○村田 美和 (地球のかげら) SV : 伊藤 信寿 氏

・・・・・・・・・・・・・・・・・・Bグループ・・・・・・・・・・・・・・・・

1 「脊髄損傷への作業療法 ～寝返り動作の修正から殿部清拭獲得へと繋がった事例～」

○窪田 嵩 氏（静岡リハビリテーション病院） SV：井上 洋輔、串田雄一郎 氏

2 「麻痺側上肢の机上活動の中での補助手獲得に向けて」

○成住 有梨 氏（静岡リハビリテーション病院） SV：井上 洋輔、串田雄一郎 氏

3 「重度の運動・感覚障害および Pusher を呈した症例に対する傾斜台を用いた介入の有効性」

○黒田悠葵（中伊豆リハビリテーションセンター） S V：那須 識徳 氏

4 「ドライビングシミュレーター訓練を通して運転再開した事例」

○松浦 有彩（浜松市リハビリテーション病院） S V：伊奈 杏都 氏

5 「成功体験を積む事で ADL が拡大した事例」

○宮崎 理子 氏（浜松市リハビリテーション病院） SV：安間 真理子 氏

6 「左小指剥離骨折、左橈骨遠位端骨折を受傷した患者に対しテニス再開を目指して介入した一例」

○望月優亜（静岡済生会総合病院） S V：中村早紀 氏

7 「注意機能に配慮して介入した結果、家事動作を再獲得することができた症例」

○天野 遥（NTT 東日本伊豆病院） S V：鍋谷仁志 氏